



伊井澤 一郎
議員

第1次産業の再生 基本方針について

第1次産業の再生 基本方針について

質問

中山間地における耕作放棄地が年々増加している中、国は、集落の話し合いによる「人・農地プラン」の作成を

促し、意欲的な農家、高齢農業者を総合的に支える農業施策を進めているが、市の見解を伺う。

また、日本が環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）に加盟した場合の影響について、市の考えを伺う。



立一 中
田 議員

アーティスト・イン・レジデンスについて

質問

人材育成や地域活性化などを目的に、国内外の芸術家を招へいし、ある一定の地域に滞在して創作活動を行う場所

を提供するアーティスト・イン・レジデンスを取り入れる考えはないか。

教育長答弁

アーティスト・イン・レジデンスは地域活性化に役立つものと捉えており、いろいろ観点から検討していきたい。

市長答弁

人・農地プランは、人と農地の問題を解決するための話し合いが地域で行われることにより、将来にわたって地域農業の維持が図られる施策であると考えている。プランの策定範囲は小学校区を一区域として考え、県、JAひすいと連携して対応していきたい。

また、TPPについては、稲作中心の当市の農業において、交渉の結果によっては、農業経営の維持が一層厳しくなるものと考えている。

並行在来線等について

質問

大糸線花いっぱい事業等の各種イベントや大糸線のラッピング車両導入の成果及び今後の活用について伺う。

また、雪や強風等、大糸線・北陸本線の冬季の運行確保策はどうか。

市長答弁

花いっぱい事業や鉄道祭りなどのイベントには市内外から大勢の参加があり、一定の成果があったものと考えている。

当市の節電と自然エネルギーの 取り組みについて

質問

節電に関する行政、市民の新たな目標設置についての考えを伺う。また、流水式小水力発電、地熱発電、バイオマス発電等の当市における普及について伺う。

市長答弁

節電について、平成23年夏季は15パーセントの節電を目標に取り組んだが、今年度は数値目標を設定していない。今後

平成25年は北陸本線全線開通100周年に当たり、ラッピングしたディーゼルカーの利用策もJR西日本に提案している。



ジオパークのイラストのラッピングを施した
JR大糸線のディーゼルカー

も無理のない範囲での節電を呼びかけていきたいと考えている。また、民間が行う流水式発電、小水力発電、地熱発電、バイオマス発電等については、その支援をしていきたいと考えている。



《その他質問項目》

- ・ 廃校の利活用について
- ・ ジオサイトでの携帯電話不感地区解消について

また、同社には冬季の運行確保を要望してきたところであり、とくに大糸線については雪崩対策実施の報告を受けている。なお、強風については、近年の脱線事故の経験から、風速25メートルを超えた時点で運行を一旦とりやめることになっている。

《その他質問項目》

- ・ 今年の異常気象による稲作への影響等と放射性物質を含む汚泥受け入れによる農業への影響について